

平成21年度企画事業

## ボランティア養成セミナー「やる気！元気！ボランティア！」

- ◆期 日 平成21年4月24日（金）～26日（日）【2泊3日】
- ◆会 場 国立能登青少年交流の家
- ◆対 象 ボランティア活動に関心のある高校生・大学生・専門学校生・社会人30名
- ◆参加者 30名（高校生4名，大学生16名，専門学校生1名，社会人9名）
- ◆講 師 （福）石川県社会福祉協議会ボランティアセンター 主任主事 茂尾 亜紀  
（財）石川県レクリエーション協会 大木 恵美子  
羽咋消防署員  
国立能登青少年交流の家職員
- ◆主 催 国立能登青少年交流の家

### 1 趣旨

ボランティア活動に必要な知識や技能の向上を図り，ボランティアとしての資質を高め，広く社会でボランティア活動に取り組める青年の育成を目指す。

### 2 ねらい

- (1) ボランティア活動に必要な知識や技能の向上を図る。
- (2) ボランティアとしての資質や態度を養う。
- (3) 参加者同士で相互理解を深め，コミュニケーション能力を高める。

### 4 活動の概要

《4/24（金）》

19:00 開講式

19:30 実習Ⅰ「人との関わりを深めるレクリエーションのコツ教えます」

（石川県レクリエーション協会）

21:15 交流会

《4/25（土）》

7:00 フレッシュタイム（企画指導専門職）

9:00 講義Ⅰ「救命救急法について」（羽咋消防署）

10:15 講義Ⅱ「ボランティアってなあ～に？」（石川県社会福祉協議会ボランティアセンター）

13:00 実習Ⅱ「救急救命講習」（羽咋消防署）

15:30 実習Ⅲ「水難救助講習」（金沢海上保安部）

18:00 実習Ⅳ「実践！チョコボラ体験 鉄板のシーズニング作業」(事業推進係)

19:00 実習Ⅴ「野外炊飯 焼そばと交流の家特製野菜スープ」

(企画指導専門職・施設ボランティア)

《4/26(日)》

7:00 フレッシュタイム(企画指導専門職)

9:00 講義Ⅲ「青少年の現状と教育の課題」(所長)

10:00 振り返り「自分のこれからについて考えてみよう！」(企画指導専門職)

10:40 講義Ⅳ「広がれ！のとボラのWA！」(企画指導専門職)

11:50 閉講式



実習Ⅰ「人との関わりを深めるレクリエーションのコツ教えます」



講義Ⅱ「ボランティアって、なあ〜に？」



実習Ⅲ「水難救助講習」



実習Ⅳ「実践！チョコボラ体験 鉄板のシーズニング作業」



講義Ⅲ「青少年の現状と教育の課題」



振り返り「自分のこれからについて考えてみよう！」

## 5 成果と課題

### (1) 事前・事後アンケートによる事業評価

事業評価を目的として、参加者30名を対象に調査を実施した。調査項目は事業内容に対応した35項目の4件法の質問紙を使用し、事業開始直前を事前（1日目）とし、全課程修了後（3日目）を事後として回答を依頼した。

その平均値の比較を図に表したものが図1である。

| 事前事後の変容 |       |       |            |
|---------|-------|-------|------------|
|         | pre   | post  | difference |
| mean    | 108.3 | 129.3 | 21.0       |
| varp    | 513.0 | 442.8 | 372.5      |
| var     | 535.3 | 462.0 | 388.7      |
| 自由度     |       |       | 23.0       |
| 差標誤     |       |       | 4.0        |
| t値      |       |       | 5.2        |
| 有意確率    |       |       | ***p<.001  |

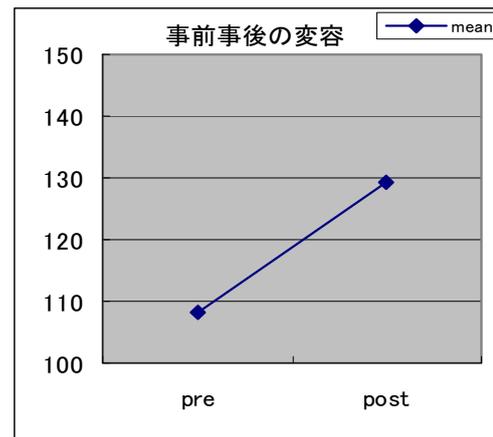


図1 事前事後における平均値の比較（全項目）

図1でも明らかなように、有意に平均値が事後に向上した。したがって、本事業に参加したことで、参加者に何らかの変容が見られ、平均値が向上したと考えられる。

そこで、具体的な参加者の変容を明らかにするために、本事業のねらいがどの程度、達成できたかを検証した。調査項目35項目を本事業のねらいである、「ボランティア活動の知識や技能」「ボランティアとしての資質や態度」「コミュニケーション能力」に分けて平均値を算出し事前事後の比較を行った。（資料2参照）

その平均値の比較を図に表したものが図2・3・4である。

| 知識・理解 |      |      |            |
|-------|------|------|------------|
|       | pre  | post | difference |
| mean  | 28.3 | 39.3 | 11.1       |
| varp  | 77.0 | 40.3 | 68.2       |
| var   | 80.4 | 42.1 | 71.2       |
| 自由度   |      |      | 23.0       |
| 差標誤   |      |      | 1.7        |
| t値    |      |      | 6.4        |
| 有意確率  |      |      | ***p<.001  |

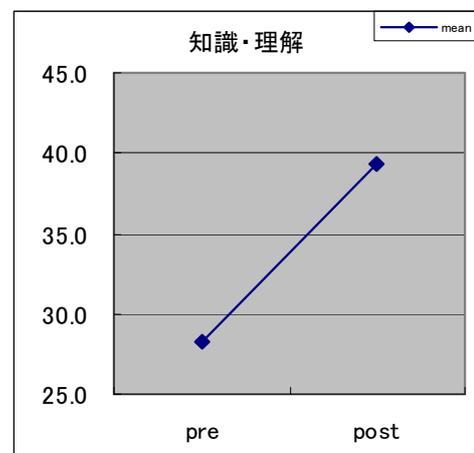


図2 事前事後の平均値の比較（知識や理解）

| 資質・態度 |       |       |            |
|-------|-------|-------|------------|
|       | pre   | post  | difference |
| mean  | 49.6  | 56.5  | 6.9        |
| varp  | 103.3 | 102.2 | 66.7       |
| var   | 107.8 | 106.7 | 69.6       |
| 自由度   |       |       | 23.0       |
| 差標誤   |       |       | 1.7        |
| t値    |       |       | 4.0        |
| 有意確率  |       |       | ***p<.001  |

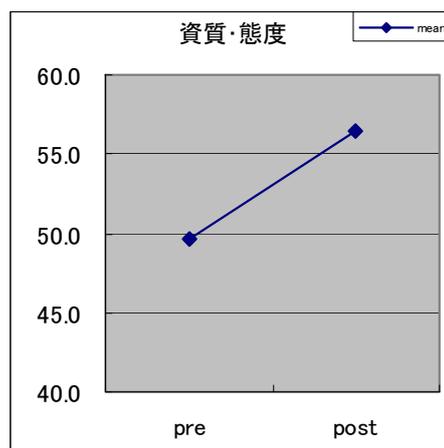


図3 事前事後の平均値の比較 (資質や態度)

| コミュニケーション |      |      |            |
|-----------|------|------|------------|
|           | pre  | post | difference |
| mean      | 26.5 | 29.7 | 3.2        |
| varp      | 25.7 | 25.6 | 25.1       |
| var       | 26.8 | 26.7 | 26.1       |
| 自由度       |      |      | 23.0       |
| 差標誤       |      |      | 1.0        |
| t値        |      |      | 3.0        |
| 有意確率      |      |      | **p<.01    |

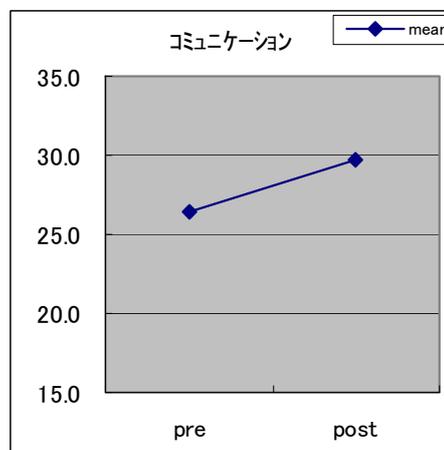


図4 事前事後の平均値の比較 (コミュニケーション能力)

図からも明らかなように、すべてのねらいにおいて、平均値が有意に向上している。その中でも特に、「ボランティア活動の知識や技能」「ボランティアとしての資質や態度」は、顕著に向上していることが認められる。したがって本事業が、参加者の「ボランティアに関する知識や技能」、「ボランティアの資質や態度」に特に影響を及ぼしたことが示された。また、「コミュニケーション能力」についても、本事業によって何らかの影響があったことも示された。

## (2) 成果と課題

- ・事前事後の参加者変容調査からも明らかなように、本事業のねらいである、「ボランティア活動に必要な知識や技能の向上を図る」、「ボランティアとしての資質や態度を養う」ことについては顕著に向上したことが分かり、ねらいを概ね達成できたといえる。
- ・「参加者同士で相互理解を深め、コミュニケーション能力を高める」ことについては、他のねらいに比べ達成度が弱かったため、コミュニケーション能力を高められるよ

うな実践的なプログラムを様々な視点から盛り込んでいく必要がある。

- ・実際に子どもたちとふれあうことのできる実践的なプログラムを望む参加者が多くいたので、他団体との連携や協力を検討する必要がある。
- ・ボランティア企画事業までの期間が長いので、本事業で高まったボランティアへの意欲を継続するための手立てを考え、ボランティア企画事業へつながるように定期的な広報活動を工夫する。

## 6 資料

### 【資料1】参加者の感想

#### 【印象に残ったこと】

- ・ 野外炊飯などで、知らない人とかかわることができてよかった。
- ・ 鉄板のシーズニング作業などで、みんなで1つのことをやることの楽しさ。ボランティアは時間がないとできないと思っていたけれど、身近なことでもできることがあるかもって、思えた。
- ・ 青少年の非行について話を聞き、大変なことになっていると思った。

#### 【ためになったこと】

- ・ レクリエーションの実習や救命救急講習は、保育の現場で役に立つと思った。
- ・ 救急救命講習は、もしもの時のためにも学んでおきたいと思った。
- ・ 人とのコミュニケーションの取り方や、他のボランティアの情報が分かった。
- ・ ボランティアに関して様々な分野で講義や活動を体験できたのでボランティアについて、より興味を持つことができた。
- ・ 違う年代の人との交流で、人と話すことの大切さを分かってよかった。

#### 【その他】

- ・ 若い方の夢とか、仕事をしている方の悩みなどいろいろ聞くことができてよかった。自分のことも聞いてもらえてよかった。幅広い仲間ができた感じがした。



講義Ⅱ「ボランティアって、なあ〜に？」

【資料2】本事業のねらいと質問紙項目との対象表

|             |                          |                                 |
|-------------|--------------------------|---------------------------------|
| コミュニケーション能力 | 5                        | 人の意見に耳を傾けることができる。               |
|             | 10                       | 相手の立場に立った行動ができる。                |
|             | 13                       | 高齢者に対してやさしく接することができる。           |
|             | 20                       | 子どもに対して、やさしく接することができる。          |
|             | 23                       | 言葉が分からなくても身振り・手振りでコミュニケーションができ。 |
|             | 27                       | 人前で自分の意見がはっきり言える。               |
|             | 32                       | 様々な国の人々に親切に接することができる。           |
|             | 34                       | 障害者に対して、やさしく接することができる。          |
| 資質・態度       | 2                        | 他者に奉仕することは自分の人生を充実させる。          |
|             | 4                        | 自分の知識や技術を誰かに伝えたいと思う。            |
|             | 6                        | レクリエーションは楽しいと思う。                |
|             | 7                        | レクリエーションの指導をするのが得意である。          |
|             | 9                        | 新しく身につけた学習成果を様々な場で活用したい。        |
|             | 11                       | モノづくりは好きである。                    |
|             | 12                       | 見本を示して分かりやすく解説するのが得意である。        |
|             | 14                       | ボランティアに取り組むことは生きがいの一つである。       |
|             | 18                       | 状況に応じて、正しく判断し、他者を導くことができる。      |
|             | 21                       | 人の喜びを自分の喜びとして感じるすることができる。       |
|             | 22                       | 自分の知識・技能を他人のために役立てることができる。      |
|             | 25                       | ボランティア活動は自分の成長に役立つと感じる。         |
|             | 26                       | 野外で仲間とゴハンを食べることは気持ちよいと思う。       |
|             | 28                       | 道具などの使い方を他人に説明するのが得意である。        |
| 29          | ボランティア関連事業を企画・運営する自信がある。 |                                 |
| 35          | 国際的な分野で活動・仕事がしたい。        |                                 |
| 知識・理解       | 1                        | 環境保護・保全についての知識・技能に自信がある。        |
|             | 3                        | AED(自動体外式除細動器)の使い方を知っている。       |
|             | 8                        | 国立能登青少年交流の家についてよく知っている。         |
|             | 15                       | 人工呼吸や心臓マッサージのやり方を知っている。         |
|             | 16                       | 野外活動についての知識・技能がある。              |
|             | 17                       | ボランティアの活動分野・領域の広さを知っている。        |
|             | 19                       | 青少年の現状と教育の課題について理解している。         |
|             | 24                       | ボランティア活動を取り巻く現代的課題について理解がある。    |
|             | 30                       | 海外のボランティア事情について理解がある。           |
|             | 31                       | 生涯学習ボランティアについて、よく知っている。         |
|             | 33                       | 社会福祉についての知識・理解がある。              |